

M R I 検 査 に 関 す る 説 明 書

MRI 検査とは？

- ・強い磁石と電波を使って、体の中を写す検査です。病気の早い発見や治療の計画に役立ちます。

造影 MRI 検査とは？

- ・造影剤という薬を腕の血管から注射をし、撮影することで病変を見易くする検査です。
- ・注射以外にも、お腹の検査では飲む造影剤を服用していただく場合があります。用途は同様です。

1 MRI 検査の偶発症

1. 体内に金属がある場合、金属が動いて体を傷つける恐れや熱を持ち火傷を起こす可能性があります。（人工骨頭、人工関節、歯列矯正ワイヤー、歯科インプラント、磁石式義歯、子宮内避妊器具、刺青、アートメイク、マスカラ、アイラインなどの金属製品や金属を含む製品）検査中に熱いなどの違和感があった際は、検査を中止させていただきます。
2. 心臓ペースメーカー、埋め込み型除細動器、脳・脊髄刺激装置、人工内耳などの刺激装置を使用されている方は、火傷や誤作動を起こす恐れがあります。特別な場合を除き検査を受けることはできません。
3. MRI 装置に入ると、めまいや酔いを感じることがあります。また、狭い空間に入るため、閉所恐怖症の方は、検査を受けられないことがあります。
4. 胎芽・胎児への影響が懸念されるため、妊娠初期（～13週）の検査は受けることができません。
5. 検査に使用する電波により体が温かく感じる場合があります。全身状態が著しく不良な方や無汗症により体温調節が難しい方は十分な検査ができないことがあります。

2 造影 MRI 検査の偶発症

1. 造影剤の注入を急速に行った場合、注射の部位に痛みや漏れを生じることがまれにあります。
2. およそ 50 人に 1 人（2%）の確率で吐き気や動悸、頭痛、かゆみや発疹などが起こります。
3. およそ 1,000 人に 1 人（0.1%）未満の頻度で、呼吸困難、意識障害、血圧低下、ショックなどの重篤な副作用が報告されています。なお、極めて稀で頻度は不明ですが、各種の処置や治療にもかかわらず、副作用により死亡に至った例も報告されています。
4. 検査後、30 分から 1 週間以内に吐き気、頭痛、発疹などが起こることがあります。症状が続く際は、病院へご連絡ください。

3 その他

1. 腎機能が低下している場合や短期間に頻回な造影検査を繰り返した場合、稀に腎性全身性線維症と呼ばれる重篤な副作用を起こす可能性があります。
2. 飲む造影剤を服用された場合、軟便、下痢、腹痛を起こす可能性があります。
3. 検査の直前に MRI 担当スタッフが問診を行い、体内金属などの最終確認を行います。

不明な点や質問がありましたら、遠慮なくご連絡ください。

連絡先

長野市民病院 TEL 026-295-1199 (代) 平日 8:30~17:00

MRI 検査室